

7 月 10 日号

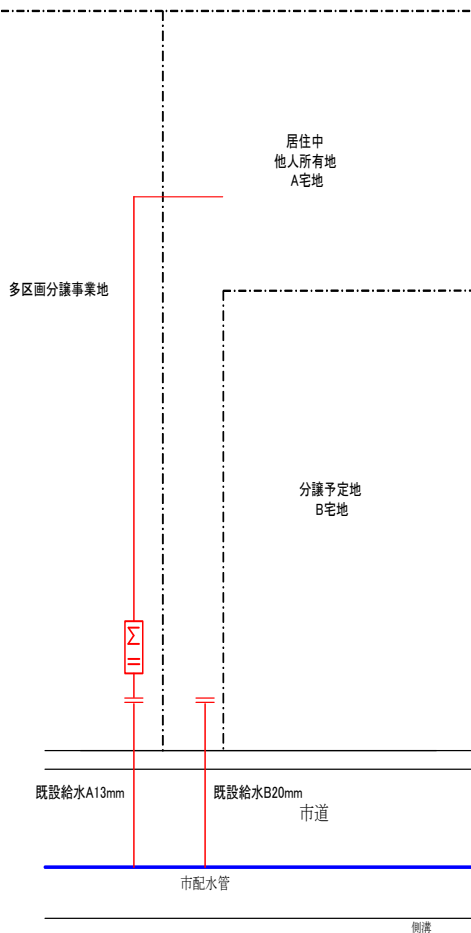
発行元 有限会社誠光設備工業
〒663-8003 電話 0798-53-5786
兵庫県西宮市上大局 4-8-18
編集長 藤田 勉

暑さも本格的になってまいりました。夏のリゾートバカンスに向けて皆さん儲けてまっか? そういう私の財布はスッカスカ。それでは今月も誠光新聞始まりです。

切り替えたのに水出えへんやん、どないすねん事件

事件は西宮市今津地区で午後2時水道局の立会いの最中起こった。

その日の工事内容について右図を使い説明する。



まず現況から説明する。図左の多区画分譲地と今回分譲地の挟まれたA宅地の給水管Aが越境し多区画分譲地に存し、又20mmの給水管BはA宅地の専用通路に存している。

今回、多区画分譲地の事業に伴いA宅地で使用中の給水管Aを専通内に移設した。と同時にA宅地に存する給水管Bを分譲地B宅地で利用するため公道で移設を行いB宅地に引き込んだ。

その給水管Bを移設しているときに異変が起きた。通常B給水管を切断し切り替える際に油圧式圧着機で塩ビ管を挟む作業を行う。その時に普通は水が滲み出るのが水の気配が全くといってない。

依頼主の要望は、越境を解消し水道管を整備することだった。移設は完了したが水が出ない。これでは任務完了とはいかない。本管分岐点での詰りが原因かと止水栓から水圧ポンプで逆押しを試みたが反応なし。

では、いったいなぜ水が出ないのだろうか西宮市の水道に詳しいS社のF氏に聞いてみた。

「理由は基本的には3つほどかんがえられますねえ」

「3つですか」

「ハイっひとつは本管分岐箇所の詰まりが原因です。この本管はビニール管なので本管の穿孔箇所には問題がありませんが分水栓自体の詰まりが考えられます。これは長い期間水道を使用していないのが原因ですね。新しくもみ変えるしかありませんねえ」

「2つ目に考えられるのは本管工事の際給水管を利用していなかったの
でつなぎ替えなかったというのが考えられます。しかしこの本管は昭和4
5年整備なのでそれから40年近く使用していなかったとは考えにくい
ので今回はこれではないと」

「じゃあ2つ目というのはなんですか」

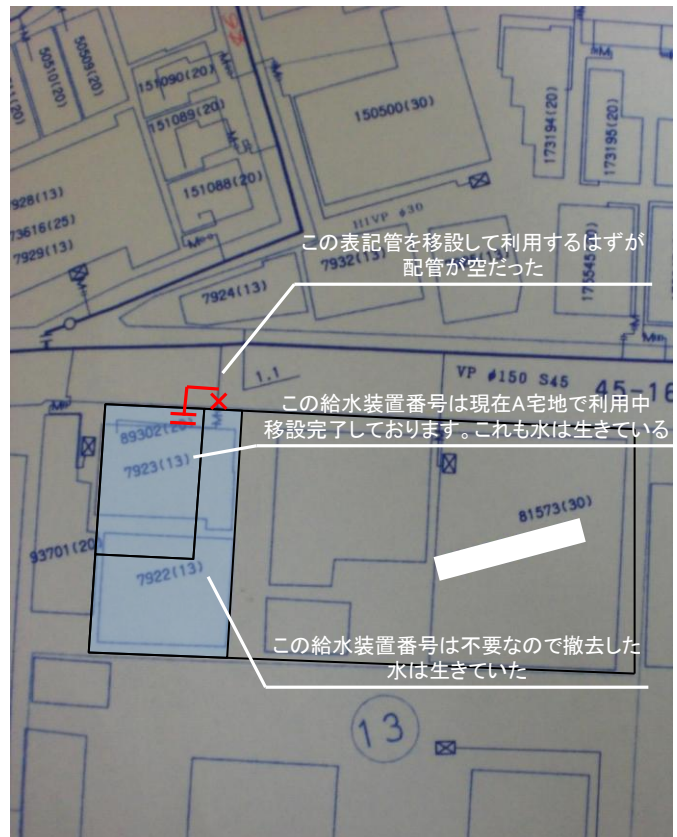
「路面漏水ですね。まず、分岐箇所から漏水して道路に水が湧き出る。
それをみた近隣住民が水道局に連絡を入れる。現場に駆け付けた局員
は緊急工事として道路を掘削して漏水を修繕する。この際に使用してい
ない水道管だとそのまま分水止めを行う場合があります。この事実が台
帳に転記されていないと突き止めようがありません。ただこういった場合
は道路を2皿くらい幅で復旧しているのでその跡があります。今回はそう
いった跡がなかったのでこれも考えにくいですね」

「それではFさん今回の原因は一体なんなんですか」

「わからん」

「本当に詳しい説明ありがとうございます」

「本当に詳しいのFさん??」



右の台帳を見てみるとA宅地で使用している7923号と分止めす
る7922号には給水管の明示はなく給水装置番号だけの記載になっ
ている。こういった表記がされている場合、分担金は発生しないが管は存し
ない場合が多い。しかし今回は両方とも管は生きていた。

一方今回空管だった893302号は管の記載、装置番号、装置口径す
べて表記されているにも関わらずこの管だけ死んでいた。

まあ掘らんとわからんゆうことすわ。

今回のミスは事前に調査を入れなかったことだ。普通であれば現在使
用していない給水管を利用する場合は水がきちっと出るか出ないかを確

かめないといけない。この調査をセイコーが怠ったために事前に報告できず。土壇場での発覚となったのだ。

わたしは現場にいなかったのだが、わたしのスーパーサブである片山に

「これ水道局が利用できるゆうから工事してんのに、水道局で水が出るよう復旧してや」と言うよう指示した。片山から連絡があった。

水道局に人がこうゆうてはりますわ

「ちゃんと事前に調べんかい」

「……………」

そうなんよなあ。やっぱり自分で調べんとあかん。今回依頼を頂いたTさん本当にすいません。少し追加が発生しますが、かわいい水道屋がまた一つ勉強できたのだと思って許してやってください。

ちなみにこれ神戸市やったら水でえへんかったら神戸市負担のセイコー施工でお客様には負担してもらわなくてもいいんやけどなあ。

追伸、今回依頼を頂いたTさんホントに水道下水とも詳しいのです。だからこそ期待に答えたかったのに残念です。

ということとセイコーは事前調査の要否を見積もりの際提出している工事調査票に加えました。一つ一つが成長の種であります。

毎度ありがとうございます。

ご紹介キャンペーン

お知り合いで神戸市での事業をされている方をご紹介ください。

神戸市はまだまだ工事代金の基準が高い傾向にあります(セイコーの周りだけかな)

とにかく神戸のお仕事を紹介いただいたお客様に契約代金の5%をお礼いたします。

(上限5万円)

《連載小説》

華麗なる水道屋

第十二回

鉄平は心齋橋のキリンビルの前で待ち合わせることにした。

「あつ ユカリちゃん」

「はいっ」

ユカリは鉄平の好みではなかった。鉄平はあまり茶髪の女が好きではない。ユカリの髪は金髪に近い茶髪でおとなしそうな顔の割に髪だけが浮いているように見えた。それでも鉄平は女は数だと思っていたので店まで一緒に戻った。

「いらっしゃいませえいっ」鉄平の店ベティはガラスドア越しにお客様が見えると気合の入った声で黒服が扉を開けてお客様を出迎える。

お客も女の子もほかの黒服もざわついている。鉄平は自分の好みではなかったの中で(おれ、こんながタイプと思われたら嫌やなあ)と思いつながらユカリをカウンター席に案内した。

「サトルちょっと来て」

鉄平はマネージャーのサトルを呼び出して説明した。

「えっ伝言で来たんすか、なら行けますやん」

サトルはユカリの事が気に入ったらしくユカリの事はサトルに任し今日のアフターの予定を考えていた。(マユミが今日はその気やからまずマユミの誘いを断らなあかん。)マユミのほうがいいしスタイルもいいが鉄平は新しいもの好きである。

しかしタイプでない女とヤルといつも朝方、後悔している自分がいる。そしてそういう日に限って誰かに嘘をつきながら新しい女を選ぶことになり。そして今日もマユミに嘘をつかなくてはいけない。そして後悔、マユミと喧嘩。シナリオはできているが、やめられない。

「店長、今日銀座ずし行こうな」

マユミが案の定、飯をねだりに厨房までやってきた。

「今日あかんねん。サトルと姉妹店の店長とミーティングやねん」

「そんないいながらあのブツサイクとヤルんちゃうの気持ちわるう」

そんなに簡単に騙せるわけではないと思っていたが今夜も言い切るしかない。

メリージェーンが店内に流れベティは閉店する。

マユミは別のホステスと興銀の客と飲みに行くらしい。

鉄平はユカリに伝票を渡す際、待ち合わせ場所を告げた。後片付けをサトル達に任せ鉄平は足早に店を出た。

《続く》

編集日誌

しかし不動産事業というのは相隣関係が大変ですなあ。近隣さんとなにも関係なくても解体作業や建築工事が始まると頭を下げて回るが増える。

これに上下水道の越境や境界ブロックの補修などほんとに簡単に収まる現場は少ない。セイコーは上下水道だけなのでいいが事業主様は家が売れて決済が終わるまでは嫌な顔もできない。ぼくならできるだけ現場に行きたくないと思ってしまうだろうな。

せひ相隣関係で面倒なことがあればゴキ使ってください。水道屋にできないこともたくさんありますが、事業主のクッションになれるような便利屋になったらいいと思っております。

それではみなさまも今月もいいお取り引きを……。